



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

—平成29年度総集編—

連載



公益財団法人

日本体育協会

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについては以下から
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業



連載

<みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント>

2020年に向けて様々な取り組みが行なわれているオリンピック・ムーブメント、パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介しました。

第132号 (平成29年5月22日発行)	
NPO法人 新町スポーツクラブ	2
第133号 (平成29年7月20日発行)	
日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会	7
一般社団法人 芸北道場	11
第134号 (平成29年9月20日発行)	
中央区地域スポーツクラブ大江戸月島	15
興本倶楽部	19
第135号 (平成29年11月20日発行)	
伊那市総合型地域スポーツクラブ	22
NPO法人 K-Friends	26
第136号 (平成30年1月22日発行)	
NPO法人 福光スポーツクラブ	32
SCおおいたネットワーク	36



連載

みんなで盛り上げよう！ 東京オリンピック・パラリンピック

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人新町スポーツクラブ ＜群馬県高崎市新町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人新町スポーツクラブ(群馬県)が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

第1回 みんな一緒にウキウキ交流会

実施日時	2017年3月26日(日)10時～12時
実施会場	高崎市立新町中学校体育館
参加者数	83名 障がい者38名(46%) <ul style="list-style-type: none">・身体障がい者10名～15名・知的障がい者20名～25名・精神障がい者5名～8名程 健常者45名(54%) <ul style="list-style-type: none">・幼児～中学生24名、一般参加者10名、主催団体関係者8名・学校、行政関係者3名 ※このほかに、12名の講師(ボッチャ10名、スローエアロビック2名)が参加
主催	高崎市手をつなぐ親の会新町支部、NPO法人新町スポーツクラブ 高崎市身体障がい者団体連合会新町支部、自遊空間みちくさ(ボランティア団体)
主管	NPO法人新町スポーツクラブ
共催	新町体育振興会、新町地域スポーツ推進員
後援	(公財)群馬県スポーツ協会、(公財)群馬県障がい者スポーツ協会
協力	群馬県ボッチャ協会、うすねニュースポーツクラブ(沼田市)

＜パラリンピック・ムーブメント＞

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画」参照



1 企画経緯

相模原障害者施設殺傷事件を受けて新町内の障がい者団体の方から新町区長会へ、障がい者も健常者も一緒に参加できるイベントを何か開催してほしいとの要望がありました。区長会長から新町スポーツクラブへ企画運営について相談があり、クラブとしてもオリンピック・パラリンピックムーブメントのことを考えていたことから障がい者団体とクラブが一緒になってこの交流会を企画しました。今回の経費は、新町体育振興会から特別助成金10万円を出していただき、講師謝金などに充当しました。

当初は行政区の代表者(新町区長会長)に事業の開催依頼がありましたが、区長会では困難との理由からスポーツクラブにお願いしたいということになり、区長会長と体育振興会長が検討して助成金を支出していただきました。

2 企画内容

- 準備体操** スローエアロビック(講師はうすねニュースポーツクラブ2名)
- ボッチャ体験** 講師は群馬県ボッチャ協会10名
3コートに分かれて、ボッチャのルール説明、スロー体験
健常者チームと障がい者チームに分かれて対戦
子どもたちは、健常者・障がい者の混成チームもあった。
- クールダウン** スローエアロビック

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 健常者も障がい者も一緒に楽しくパラリンピック種目を体験できました。
- すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- パンフレットにもあった「なぜこぜ社会」の大切さを感じました。
- 今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 障がいがあってもアクティブに動く努力をしている人がいることを知ってもらえる機会でありがたい。(身体障がい者)
- 地域の子どもたちが自然と障がい者と一緒に楽しんでいる姿が新鮮で、見ていてウキウキしました。(障がい者団体)

運営者の声(実施後)

- 初めての企画だったので健常者と障がい者がまぜこぜにできるか心配したが、最終的に一緒になって楽しんでいたのでホッとしました。すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- 学校の体育館は老朽化しているため、多目的トイレはもちろん、洋式トイレもない状況で、企画運営側としてこのような点に配慮が足りませんでした。今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 初めての企画として比較的円滑に実施することができた要因として、障がい者団体の方とクラブと一緒に企画運営委員会を組織して実施できたことと福祉協議会との連携協力がありました。

4 企画運営委での議論や工夫

- 地域への告知方法が一番の課題でした。高崎市広報からも広報誌への掲載について声をかけていただきましたが、高崎市全体から集まるリスクも考えて広報する範囲、パンフの配布方法について時間をかけて議論しました。
結果として、①主催団体からパンフを関係者に配布する、②事前告知は、新聞社から掲載する連絡があったら掲載してもらうことにしました。
- 障がい者団体は、高崎市の中に合併町村の支部があり、細分化されていることから、様々な団体への連絡方法には連絡漏れがないように気を使い、運営委員で確認しました。
- 新聞社へのアプローチは、新聞社の立場になって「売れる見出しと内容」を意識してパンフを作成し、開催日5日前にFAX送信し、担当記者には個別に取材依頼を電話でしました。普段から記者と仲良くしていることが大きなポイントです。今回の売れる見出しは、「障がい者も健常者もみんなまぜこぜ社会へ」です。

5 企画運営上の重要ポイント

- 障がい者の団体は細分化されていますが、行政窓口として「社会福祉協議会」があります。この組織と連携することが重要で、なおかつ円滑に事業を進めるポイントです。
- 障がい者が参加することから障がい者用トイレの有無について、確認する必要があります。また、「てんかん発作」などの疾患についても想定する必要があるため、看護師の常駐は絶対条件です。
- 障がい者スポーツに対する健常者の感覚は、「軽い道具で簡単にできる」という安易な心構えになってしまう傾向があります。ルール説明の際に、道具の重さ、使用方法を体感してもらって想定している道具とは違うことを知ってもらうことから始めると良いと思います。また、健常者が障がい者を意識し過ぎると本来の交流にならないので、自然体に接することが大切ということを運営者側が留意する必要があります。子どもが良い潤滑油なってくれます。

6 今後の展望

- 参加したみなさんからも強い要望があることから、健常者と障がい者が一緒に体験できるイベントを継続して開催する予定です。
- 新町内の小学校からもPTA事業として開催したい旨の連絡があり、クラブと学校が連携して体験教室を開催することになりました。
- 2017年度から群馬県障害者スポーツ協会と県内総合型地域スポーツクラブが協力して県内4か所で障害者スポーツ体験交流会を開催します。

(NPO法人新町スポーツクラブ 小出利一)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成12年11月23日

所在地 群馬県高崎市新町地域

特徴 平成9年度からスポーツ少年団を核にした総合型地域スポーツクラブの育成を始めて、子どもたちを中心にしたスポーツ活動等を実施してきた。次世代育成事業として、平成11年からニュルンベルク市スポーツユースと定期青少年国際交流事業を実施している。また、平成27年度から、「赤ちゃんと保護者のためのベビーダンス教室」、「高齢者向けの貯筋運動教室」も開催している。

連絡先 〒370-1301 群馬県高崎市新町2483-2
 電話番号 0274-42-2198(携帯:090-3912-0043)
 FAX 0274-42-2198
 E-Mail koide.svc@chive.ocn.ne.jp
 URL <http://shinmachi-sc.org/>



健常者と障がい者混成チームでボッチャの試合を体験しました。



健常者、身体・精神障害がある様々な人たちが笑顔で楽しく体験出来ました。



朝日新聞群馬県版3月24日付けに事前告知記事として掲載されました。



上毛新聞3月27日付けに当日の様子が掲載されました。



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)を活用した総合型クラブの周知 全国を#(ハッシュマーク)でつなげよう！ あなたの地域に#総合型地域スポーツクラブ

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

そこで、今回は6月23日のオリンピックデーに全国の総合型クラブや連絡協議会等が取り組んだ「オリンピック・ムーブメント」を紹介します。

1 企画の目的

日本体育協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)加入クラブ関係者がSNSを使用し、総合型クラブの周知を行うことで、総合型クラブを知らない方々やスポーツをしたいけどする機会がない方々※へのPRを図る(社会的認知度向上)とともに、加入クラブ同士の一体感の醸成と交流の推進を図ることを目的としました。

※今回は特に、SNSを普段使用している若者をターゲットとしました。

2 企画内容

クラブ・個人が所有しているSNS(フェイスブックやツイッター)を活用し、6月23日のオリンピックデーに「総合型地域スポーツクラブ」、「地域でスポーツしませんか」の全国共通キーワードを【#】ハッシュマークを付けて投稿！

※全国共通キーワード以外にもクラブが所在する地域やクラブ名にも【#】を付けて投稿！

実施日時	平成29年6月23日(金)オリンピックデー
実施ツール	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) 例):フェイスブック、ツイッター、インスタグラム等
参加者数	SC全国ネットワーク関係者 約140名
主催	SC全国ネットワーク



3 企画に至った経緯

去る3月1日にSC全国ネットワーク平成28年度総会にて承認された「平成29年度の取組」に基づき、総合型クラブの社会的認知度向上を目的とした取組を行うこととなりました。

そこで、経費が掛からず、ユニークであり、全国各地のSC全国ネットワーク加入クラブを巻き込んだ総合型クラブの社会的認知度向上につながる取組に焦点を絞った結果、SNSを使用した企画を行うこととしました。

【実際に投稿したクラブ・連絡協議会の例(フェイスブック)】

Left post (ナスク 総合型地域スポーツクラブさん):

ハッシュタグで繋げよう！
全国の総合型クラブ、一斉情報発信の日、だそうです。
ご存知かもしれませんが、ハッシュタグを使うとタグのキーワードだけを集められるんです。フェイスブックでスマホならハッシュタグのついた太文字を長押しするとフィルタで同じタグのキーワードだけを集められます。やってみて下さいね！

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか, #沖縄県今帰仁村, #NPO法人ナスク, #沖縄県ネットの会

Right post (うどん県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会):

本日6月23日(金)は、オリンピックデー！
「国際オリンピック委員会(IOC)」の誕生日です。
誕生した1948年から、全世界で様々なオリンピックデーイベントが行われています。もちろん日本でも。
<http://www.ioc.or.jp/ivent/dayrun/>
せっかくの記念日。われわれ総合型地域スポーツクラブも、日頃の活動を発信していきましょう！

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか

Center box: 全国共通キーワード

このように、【#】を文頭につけた文字は青くなり、全国共通キーワードをクリックすると…

全国共通キーワードを投稿した他のクラブの投稿も見ることができます！

【フェイスブック】

Top-left post (洋野スポーツクラブ):

皆さん、こんにちは！
洋野スポーツクラブクラブマネージャーです。
久々の投稿失礼します。
本日は全国一斉イベントということで、なんちゃって便乗してみました。
みなさん、この夏は是非とも「洋野スポーツクラブ」で一緒に汗を流しましょう！！

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか, #SC全国ネットワーク, #種子市体育館, #洋野スポーツクラブ, #HOTCLUB, #スポーツで地域に活力を

Top-right post (NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ):

SCあいちサマーキャンプ2017のちらしが完成いたしました！愛知県下4クラブでの共催事業です。
ゆめフルたけとよは先着10人を募集いたします。
募集期間は7月4日(火)～8日(土)です！
実行委員会一同、お待ちしております(^^)

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか, #ゆめフルたけとよスポーツクラブ

Bottom-left post (たかいで総合型地域スポーツクラブ):

幼児の運動遊びから年配の方向けの健康教室など様々な運動教室を開設しています。… もっと見る

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか, #長野県塩尻市高出地区周辺, #たかいで総合型地域スポーツクラブ

Bottom-right post (出雲ファーストクラブ):

会員募集中

Hashtags: #総合型地域スポーツクラブ, #地域でスポーツしませんか, #島根県出雲市, #出雲ファーストクラブ, #会員募集中

【ツイッター】



【インスタグラム】



まさに、加入クラブ同士の一体感の醸成と交流の推進のきっかけになります！

今回6月23日(金)のオリンピックデーに投稿したSC全国ネットワーク加入クラブ関係者は約140名でした。そして、SC全国ネットワーク加入クラブ以外でも、この企画に参加されたクラブ関係者がいました。また今回の企画を契機に、6月23日以降も【#】を使用し、【#総合型地域スポーツクラブ】と投稿しているクラブ関係者もいらっしゃいます。

全国各地で【#】を使用した同一キーワードが投稿されればされるほど、ターゲットは、そのキーワードをクリックすることで、各地域の総合型クラブの情報を手に入れることができるとともに、自身の地域の総合型クラブを見つけることができることから、この取組は、全国各地に存在する総合型クラブの強みを生かせると考えられます。

投稿数は少なかったかもしれませんが、今後、更に多くのクラブを巻き込んだ企画とすることにより、SNS上の大きなムーブメントとなることが期待されます！

5 今後の展望

今回、全国共通キーワードを、あえて同一日に投稿することとしたのは、【#】がついた共通キーワードの投稿数が多いほど、旬の話題※として全国、しいては世界から注目され、総合型クラブに興味・関心を抱く人を一気に増やすことができると考えたためです。

この企画をきっかけに、SNSを活用している総合型クラブの関係者に【#】を日常から使用いただき、来年度、同様の企画を行う際には、更に多くのクラブ関係者が参画できるよう【#】の使用等方法、企画の早期周知を行い、【#総合型地域スポーツクラブ】の発信を行っていきたいと考えております。

全国の総合型クラブが【#】を活用し、ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西の盛り上げに寄与することにより、総合型クラブとしてのメッセージを全国しいては、世界に発信し、【#総合型地域スポーツクラブ】レガシーを残すことも期待できます！

※ヤフーやツイッター上で、その日に多く投稿されたキーワードが「注目キーワード」として、ランキング付けされます

最後に、本企画にご協力いただきました都道府県総合型クラブ連絡協議会関係者の方々、企画を実施いただいた総合型クラブ関係者の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

【#】 使い方

- ① クラブ、個人が所有しているSNS(フェイスブックやツイッター)を使用します。
- ② 【#】を付けるキーワードを決めます。
- ③ キーワードの前に、#(ハッシュマーク)という半角のシャープをつけます。
例:【#総合型地域スポーツクラブ】【#東京都渋谷区】【#〇〇スポーツクラブ】
- ④ 正しく【#】が付けられると、【#】を付けた文字が青色になります。
※青色にならない場合⇒【#】が全角の場合、「?」「!」「@」のような記号を使用している場合。
- ⑤ 投稿！！
- ⑥ 投稿した【#(文字)】をクリックすると、同じキーワードを投稿した方々を見つけることができます！

連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介



一般社団法人 芸北道場 ＜広島県北広島町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

そこで、今回は6月23日のオリンピックデーに全国の総合型クラブや連絡協議会等が取り組んだ「オリンピック・ムーブメント」を紹介します。

オリンピックデー2017 みんなでつなごう！芸北あまごリレー

実施日時	平成29年6月23日(金)
実施会場	北広島町芸北運動公園 芸北B&G海洋センター 上屋シート付きプール
参加者数	北広島町立芸北小学校児童・職員・スタッフ 約100名
主催	一般社団法人芸北道場(協力=芸北小学校、八幡川漁協)

1 企画経緯

以前より広島県北広島町内の他地域で毎年オリンピックデーイベントが開催されていることから、芸北道場理事が「ぜひ、やりたい！」と発起人となり、芸北小学校の快諾も得て今年は芸北地域でも初めて開催しました。芸北小学校は地域の学校でもあり、常日頃から協力・連携関係を保ってきました。クラブの教室にも小学校の児童が参加し、保護者の方々にもご協力いただいています。

開催に向け道場運営委員会で3回、小学校でも3回の準備会議を開き、ブランド名にもなっている「芸北あまご」を使っのバケツリレーを実施することになりました。



2

企画内容

<イベント概要>

- 縦割り班(計8班、各班8人前後)ごとに低学年からスタートし、バケツをバトン代わりにリレー形式で、ビニールプールの位置までの約15mを走り、あまご1匹をつかみ取りする。
- つかみ取りした、あまごはバケツの中に入れてスタート地点へ戻り次の人に渡す。
- つかみ取りを終えた子供たちはプールサイドに上がり他のみんなを応援する。
- アンカーがゴールした時点で終了。

※リレーは2回実施。競争ではなく「つかみ取りリレー」を楽しむことが主眼。
最後の3回目はプール全体にあまごを放ち全員でつかみ取りを楽しむ。

<会場準備>

- 150匹の芸北あまごを調達。
- プールにくるぶし辺りまで水をためる。
- プール内に台を設置し、その上にビニールプールを据え、あまごを放す。
- 塩焼きにするための芸北あまごの焼台、串、食塩などを用意。

<当日スケジュール>

- 「始まりの会」で、クラブスタッフから参加児童にオリンピックデーの趣旨と開催に至った経緯、具体的スケジュールについて説明。
- リレーを行う前に小学生低学年から、あまごをつかむ練習。
- リレーの実施。
- つかみ取りしたあまごは、塩焼きにしてみんなで食べる。
(道場スタッフと八幡川漁協の方々の協力を得て塩焼きに)

あまご どんな魚



サケ科の魚サツキマスの陸封型。体側に黒色斑紋の並ぶ清楚な魚で、小朱点のある点でヤマメと異なる。西南日本の太平洋側河川の上流にすみ、全長約20センチ。

『芸北あまご』は、芸北道場地元の大暮川の清流水を使って大暮養魚場が育て上げた養殖あまごです。一般的な養殖あまごの2~3倍の時間と手間隙をかけ、薬品を極力使用せずに育てた大変活きの良いあまごは、地元のみならず、広島市内の飲食店や首都圏からも高い評価を得ています。

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- プールで初めてあまごのつかみ取りをして、とても楽しかった。
- 泳ぐ以外でプールの中を走り、面白かった。
- 水の中を走るの思った以上に大変だったけど、貴重な体験ができた。
- みんなで、みんなにつないだあまごリレーが印象的でした。
- オリンピックを身近に感じるきっかけになり2020年が楽しみになりました。

運営者の声(実施後)

- 子供たちの笑顔が何より嬉しかったです。
- 走り終わった後、他のみんなを一生懸命声を出して応援している姿が大変良かった。
- 高学年が低学年を思いやり、サポートしながら一緒に楽しんでいる様子が印象的でした。

4 企画運営上の重要ポイント

当日を迎えるにあたり、小学校の行事を確認するとともに芸北B&G海洋センター上屋シート付きプールを確保し、さらに開催日の授業との兼ね合いを学校側と話し合い、八幡川漁協など各方面にも協力要請しなければならず、準備過程で多くの苦心がありました。また、開催日はプールの準備作業、塩焼きの準備作業等に追われました。

5 今後の展望

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まっている昨今、今回の取り組みにより私たちの国、日本で行われるオリンピックを地方でもより身近に感じられることにつながったのではと思います。
- 内容に変更があるかもしれませんが、何らかの形でオリンピックデーに関わるイベントを毎年実施し続けたいと考えています。

(一般社団法人 芸北道場 事務局長 深井 高子)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成21年3月22日

所在地 広島県山県郡北広島町

特徴 地域住民のスポーツ、文化、産業振興、健康増進等に関する活動を行い、住民の健康維持・増進及び青少年の健全育成に努めている。
また、豪雪地帯であるため、特に芸北地域特有のスノースポーツに力を入れ活動を行っている。

連絡先 〒731-2322 広島県山県郡北広島町細見10141-16 芸北運動公園内
電話番号 0826-35-1045
FAX 0826-35-1058
E-Mail geihokudojo@khiro.jp



始まりの会
オリンピックデーについて、今日のスケジュールについて説明を行いました。



スタート位置に並び、競技説明を聞きました。そして低学年のみんなはつかむ練習をしました。
そしてよーいドン。あまごのつかみ取りリレー。
みんな楽しそうです。



集合写真
がんばろう！オリンピック



つかみ取りしたあまごを塩焼きにしてみんなで食べました。
頭からしっぽまでしっかり食べました。



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介



中央区地域スポーツクラブ大江戸月島 ＜東京都中央区＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、中央区地域スポーツクラブ大江戸月島(東京都)が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

おもてなし大作戦 選手村予定地&月島地区100回大掃除

実施日時	毎月第一土曜日 午前7時から9時(平成26年度から開始)
実施会場	2020年東京オリンピック・パラリンピックの選手村予定地である晴海地区を中心とした月島地域
参加者	クラブ会員、中央区長、区議会議員、消防・警察職員、中央区民多数
主催	中央区地域スポーツクラブ大江戸月島



1 企画経緯

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、クラブの活動エリア内に選手村が設置されることから「参加される選手の皆さまに気持ちよく使って欲しい」という声上がり、大江戸月島の会員の皆さまを中心に街をきれいにしようという活動が始まりました。

クラブ会員が知人に声をかけ、第1回の清掃には14名が参加。その後の告知もクラブホームページ以外では口コミのみで進め、区民だけでなく区長、区議、公務員関係者も参加していただけるようになりました。



2 企画内容

- 目的** 選手村予定地・月島地区にてゴミ拾い
- 目標** 2020年に向け、計100回行うことが目標
- 清掃エリア** 工事中エリアを除いた選手村予定地全体
- 使用用具** 軍手、トング、ゴミ袋
※参加者が持参しない場合は、クラブ側が用意
用具経費はクラブが負担
- ゴミの種類** ①たばこの吸殻、②飲食の残りもの(弁当箱、ペットボトル等)
③紙類(新聞、雑誌等)、④季節要因のゴミ(花火類)
⑤その他(自転車等の大きなゴミ)



春 満開の桜を見ながらの清掃



清掃風景



清掃後はゴミを分別して収集車に運んでもらう

3 運営上の苦心

本来はもっと目立つところで実施すれば人目に付きやすく、参加者も増えるのかもしれませんが、選手村予定地は端に位置しており人目に付かないため、どうしても地味な活動になってしまいます。その分、活動が公に認識されにくく、始めた頃は「こんなところで何をしているのか？」という目で見られました。

参加者が最も多かったのが平成27年4月の25人。やはり口コミでの参加要請のため参加者の大幅増は難しいのかもしれませんが。

4 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 毎回来るたびに変わっていく選手村予定地を見ていると、徐々に2020年が近づいていることを感じる事ができました。
- ボランティア活動の重要さに気付きました。
- ゴミが思った以上に(多く)あるので驚きました。

運営者の声(実施後)

- 参加者の選手への「おもてなし」の心が伝わってきます。
- 地域に根付いたボランティア活動が行われることはいいことだと思います。
- いろいろなボランティア活動を通じて、たくさんの方々と交流を持ちたいと思います。

5 他の地域・クラブへのアドバイス

●無理のない参加人数・清掃範囲で活動 清掃後の交流イベントも有効

最初は無理のない企画内容(人数、範囲)で実施してください。無理をすると、せつかくの企画が継続できなくなってしまいます。大江戸月島では、継続につなげるため清掃後にお花見、バーベキューなど参加者が交流できるイベントも一緒に実施しています。

●何か目標を設定する → 活動が継続

継続にはモチベーションが必要となりますので、何か目標を設定すると効果があります。たまたま今回の清掃活動も、2020年東京オリンピック・パラリンピックの選手村がクラブの活動範囲内に設置されることがきっかけとなり、スタートしました。開始時から毎月1回実施すると83~85回ほどの開催になるので、「終盤は頑張って回数を増やし100回できるといいな」という新たな目標も生まれたことによって、継続につながっているのかもしれない。

6

「おもてなし」を心に「大掃除100回」を目指す

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックで私たちの「おもてなし」をお届けしたいと思えます。8月現在で38回の開催となりました。「おもてなし大作戦 目指せ“大掃除100回”」。この初心を忘れず、目標に向かって活動を続けていきたいと考えております。

(中央区地域スポーツクラブ大江戸月島 事務局長 矢子達哉)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年2月17日

所在地 東京都中央区月島

特徴

- ・人口増加に伴い子どもを対象としたプログラムを中心に展開している。
- ・街の特性を生かして隅田川・朝潮運河を利用したカヤック教室を開催している。
- ・校庭開放の活性化、公園でできない遊びをやろうという目的で「すぼぐら」を実施。(補助なし自転車の乗り方教室、親子で水鉄砲大会、凧揚げ、野球、フットサルなど)
- ・アスリートのキャリアを生かした教室(野球、フットサル、バスケット、かけっこ)などを展開している。

連絡先

URL <http://chuo-sports.com>
E-Mail info@chuo-sports.com

連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介

興本(おきもと)倶楽部 ＜東京都足立区＞

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことで、2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、興本倶楽部(東京都)が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介いたします。

米国人講師による英会話教室 ＝ボランティア等での関わりを目指し＝

実施日時	平成27年5月からスタート、週1回火曜日に開催
実施会場	足立区立興本小学校内の和室
参加者数	1教室30名 受講者＝中学生30名、高校生10名、一般10名
講師	米国人1名
主催	興本倶楽部
後援	足立区

1 企画経緯

2020年東京オリンピックを迎えるにあたり、色々な国の人達が東京を訪れる時に少しでも英語が話せるようになってもらいたい、機会があったら若者たちがボランティアとしてオリンピックに関わる人材になってほしいとの思いがありました。さらに、英会話を覚えることで学業にも反映されればと、クラブマネジャーが英会話教室の立ち上げを企画・立案しました。

講師の選定ですが、たまたまクラブマネジャーの知り合いに米国人がいました。日本に20年以上在住している男性のロバート・サンタナさんで、足立区の施設で長年英会話講師を務められていたことから、講師にうってつけとの判断で就任を要請しました。受講料は10回コースで計1万円、講師への謝礼は1教室1万円で運営しております。



2

企画内容

〈英会話教師の概要〉

- 2020年東京オリンピックでボランティアとして活動できるよう中学生、高校生、成人を対象に米国人講師が簡単な挨拶程度の英会話を指導。2020年に向け、計100回行うことが目標
- 中学生だけを1教室とし、高校生以上は別の1教室と一緒に学ぶ
※1日2教室開催
- 中学生30名、高校生10名、一般10名の定員制を採用
※高校生以上の教室にはクラブスタッフも参加
※時には小学校の先生が飛び入り参加することも
- 教本やCD、音響機器は使わず、ホワイトボードを活用
※講師がテキストを用意するが、受講者が下を向いてしまうため見ないよう講師が指示
- 講師は日本語堪能ながら、教室では日本語は一切使わず、すべて英語で授業を実施

3

参加者・運営側の声

参加者(保護者等)の声(実施後)

- 米国人講師に習えて学校の授業と違う発音や会話が習えて楽しそうだった。
- 中学生には、なかなか難しく、声に出して話すのが大変でした。
- 高校生は、とても上手に会話ができるようになり、(保護者のみなさんにも)好評です。

運営者の声(実施後)

- 高校生の習得が素晴らしく、質の高い教室にすることができた。
- 講師の先生が米国のお菓子などを沢山持って来てくれて、日本では味わえない甘さや辛さを体験しながら米国の文化にも触れられた。

4

継続開催が重要 足立区とも連携し合同開催に発展

参加者は簡単な挨拶や道案内などをほぼ覚えましたが、継続して使っていないと忘れてしまうので、足立区と連携して幅広く展開していくことになりました。その結果、クラブだけの実施ではなく、近くの足立区生涯学習センターでも合同開催するまでに発展しております。合同開催の参加者は高齢者の一般区民が主体ですが、クラブの一部受講者も参加しています。

今回の生徒たちには、ぜひ東京オリンピックの際に活躍してほしいと願っています。

(興本倶楽部 クラブマネジャー飯ヶ谷 美恵)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成27年12月10日

所在地 東京都足立区扇3-22-1

特徴 地域の子供達の体力向上、健全育成に努めている。

高齢者の介護予防・コミュニケーションづくり

若者世代をスタッフに取り入れて育成し、大変活躍している。

連絡先 〒123-0873 東京都足立区扇3-22-1 足立区立 興本小学校内

TEL 03-3890-7481 (FAX同)

E-Mail okimotokurabu@ybb.ne.jp



アメリカ人講師による一般の部英会話
なかなか発音が難しい...



中学生の部
とても熱心で覚えが良い

連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介

伊那市総合型地域スポーツクラブ ＜長野県伊那市＞

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことで、2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、伊那市総合型地域スポーツクラブが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

シットイングバレーボール体験会

実施日時	平成29年10月21日(土)10時～12時
実施会場	伊那市民体育館
参加者数	63人 内訳＝全日本強化指定選手11人、全日本スタッフ12人 障がい者の体験参加10人、健常者の体験参加30人
主催	伊那市教育委員会、伊那市総合型地域スポーツクラブ
主管	伊那市総合型地域スポーツクラブ
協力	日本パラバレーボール協会、伊那バス観光株式会社

1 企画経緯

伊那市総合型地域スポーツクラブ運営委員からの紹介で1998年長野パラリンピック・アイススレッジ・スピードレース銀メダリストであり、シットイングバレーボール全日本男子強化選手である加藤正さんがクラブハウスに来られたのが最初の出会いです。「シットイングバレーボールで東京パラリンピックを目指している。地元の伊那で活動できる環境を整えたい」という加藤さんの意向を受け、クラブとして「シットイングバレーボール」への取り組みが始まりました。



今回は、シッティングバレーボールという競技について知ってもらい、伊那にシッティングバレーボール教室が存在し地域でも活動できることを周知するために体験会を企画しました。体験会では、全日本強化指定選手を招くことで、日本トップクラスのプレーを実際に見て、障がい者スポーツを自ら体感してもらうことが狙いです。

教室や体験会を開催するにあたり、シッティングバレーボールの用具も必要です。障がい者スポーツの用具は、その競技専用のもが多く、高価なものも少なくありません。体験会のハード面とソフト面を充実させるために助成金をさがしました。

2 企画内容

全日本男子強化指定選手によるデモンストレーション(全日本強化指定選手11名参加)
全日本強化指定選手と一緒にシッティングバレーボール体験会

3 課題

- ① 障がい者スポーツは専用用具が必要となるため、環境整備に費用がかかります。
- ② 協力者、ボランティアの人々をいかにして集めるか が重要です。会場設営の準備作業、終了後の後片付け、球出しや球拾いなどの練習補助などで人員が不可欠です。さらに広報活動や事務処理面でも人が必要になります。

4 リスクマネジメント

お尻を床につけてプレーするため、座位バランスが取れない場合や褥瘡(じよくそう=床ずれ)の恐れがある場合などは対応が難しいので、事前に障がいの種類を確認しておく必要があります。

また、知的・精神など障がいは一人ひとり違うことから一人ひとりに対して丁寧なコミュニケーションをとることが大切です。

5 工夫したポイント

伊那市からの提案・委託を受け、当クラブが日本パラバレーボール協会との調整にあたり実現しました。体験会に合宿誘致を合わせることで会場使用料などの費用面を抑えることに成功しました。

また、合宿誘致 と合わせたことで行政と民間企業との協働事業にすることができました。

6 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- このようなスポーツがあることを初めて知りました。
- 体験会を見て興味が湧きました。
- 障がいがあってもスポーツができることを知り、教室に参加したいと思いました。
- 強化選手のデモはスピード感があってすごいと思いました。
- 色々な人(障がいの違い)が参加していて楽しそうでした。
- もっと知られるようになったらいいですね。

運営者の声(実施後)

- 障がい者スポーツは、プレーする人と同人数、もしくはそれ以上のスタッフ陣容が必要であると感じました。

7 国内大会出場を視野 ボランティアと指導者の増員が課題

2016年秋に設立され当クラブに所属するシッティングバレーボールチーム「信州BlockMarket」は、毎週木曜日に練習を行っています。20名以上集まることも多く、盛り上がっています。来年度は国内大会への参加を見据えて練習に励んでいます。体験会では多くのメンバーが協力者・参加者として参画し、体験会後にはホームページや電話での問い合わせも増えています。

障がい者スポーツでは、ネットやコートを設営する作業など、陰で支える人の存在が重要となります。障がい者スポーツに理解のあるボランティアや障がい者スポーツの指導者を増やしていくことが今後の課題です。

(伊那市総合型地域スポーツクラブ マネジャー 齋藤 聡史)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年4月1日

所在地 長野県伊那市

特徴 会員向けの講座が130講座を超え、スポーツに限らず芸術や文化活動も取り入れている。市内の学校と連携をしての部活動支援が広がっている。最近では子育て支援事業としてマタニティーから保育園に入るまでを長期的にサポートする「すくすくプラン」が人気を呼んでいる。

連絡先 〒396-0026 長野県伊那市西町5830-1市民体育館附属施設1階

電話番号 0265-73-8573

FAX 0265-98-0270

E-Mail inasougo@valley.ne.jp

URL <http://inasougo.com/>



全日本男子強化指定選手によるデモンストレーション



体験会 集合写真



体験会



普段の活動の様子



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人K-Friends ＜徳島県勝浦郡勝浦町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人K-Friendsが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介いたします。

「ビッグひな祭り」と「ボッチャ体験会」のコラボ

障がい者スポーツの普及・啓発に寄与



1 企画経緯

阿波勝浦には、世界を魅了する文化があります。それは、「元祖 阿波勝浦ビッグひな祭り」です。

「元祖 阿波勝浦ビッグひな祭り」は、1988年から始まり、毎年2月末から3月にかけて盛大に開催され、人口約5400人の町に約3万人の観光客が来場します。

そして、この「ビッグひな祭り」は、2016年8月に開催された「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」のジャパンハウスに展示され、3mを超える高さに飾られたひな壇の「おだいり様とおひな様」の姿が、世界各国の人々の心をとらえました。

この取り組みに尽力された、NPO法人阿波勝浦井戸端塾の稲井稔理事長は、「この日本特有の文化をぜひ、2020東京オリパラでも見せてあげたい」との想いを深められており、クラブが主体になって町内の各団体から構成する「スポーツツーリズムかつら」の協議の席で、その想いを熱く語られました。

さらに「スポーツツーリズムかつら」の活動の一環で、スポーツツーリズムセミナーを実施した際、松永敬子講師(龍谷大学経営学部教授)から「このビッグひな祭りの存在をもっとアピールし、そのためにはスポーツイベント等との連動を模索することが望ましい」とご教示をいただき、関係者の心に強く訴えかけました。これが転機となり、クラブとして次のような事業に取り組むことになりました。



阿波勝浦満喫フォトオリエンテーリング

実施日時	平成29年2月26日(日)
実施会場	勝浦町農村環境改善センター
参加者数	75名(ファミリー9組40名 一般参加者35名)
主催	スポーツツーリズムかつら
主管	NPO法人K-Friends
共催	勝浦町、一般財団法人徳島県スポーツ振興財団
協力団体	NPO法人阿波勝浦井戸端塾、ふれあいの里さかもと、勝浦町地域活性化協会、徳島県山岳連盟、四国大学、勝浦町婦人会、勝浦町スポーツ推進委員会、生名ロマンの会、勝浦町商工会、かせやまクラブ

ボッチャ体験会

実施日時	平成29年2月26日(日)
実施会場	人形文化交流館
参加者数	親子連れら約360名
主催	徳島県、一般財団法人徳島県スポーツ振興財団
協力	徳島県障がい者スポーツ協会、NPO法人K-Friends

3

実施2イベントの詳細

同日開催→オリパラへの関心高まる

【阿波勝浦満喫フォトオリエンテーリング】

- スタート地点を中心とするエリア内に26箇所のポイント(難所はポイントが高い)があり、制限時間内にグループやファミリーで地図とコンパスを使って戦略を立てながら効率よく得点を重ねるゲームです。勝浦町商工会に協力をいただき、地元商店もポイントに組み入れ、割引券を発行し商品を購入してもらいました。上位入賞者には、「まけまけいっぱい」(あふれるほどいっぱいの)地元特産品をプレゼントしました。
- ゲーム終了後は、宿泊施設「ふれあいの里さかもと」の特製ランチ「おひなさま御膳」をいただき、おひな様街道から奥座敷の森本邸まで、勝浦町地域活性化協会と四国大学生のボランティアガイドによるウォーキングを満喫しました。
- 最後には、「第29回阿波勝浦ビッグひな祭り」会場を案内し、リオデジャネイロでの展示を再現したおひな様を見ていただきました。

【ボッチャ体験会】

- 「第29回阿波勝浦ビッグひな祭り」会場への入場者を対象に、リオパラリンピックにて銀メダルを取得した「ボッチャ」競技を体験していただき、障がい者スポーツの普及・啓発を図りました。
- 約3万体のひな人形に囲まれた会場で、ミニゲームを実施。県障がい者スポーツ協会のスタッフにボッチャのルールを説明してもらい、参加者は2チームに分かれて、ボッチャ競技を実体験しました。参加者には、勝浦町特産の貯蔵ミカンが贈られました。

実施に至った経緯

フォトオリエンテーリングが、徳島県広域スポーツセンター（一般財団法人徳島県スポーツ振興財団が県民スポーツ課の分室として運営）と連携した取り組みであることから、広域スポーツセンターからの提案により、また、県障がい者スポーツ協会の協力も得て実施しました。

ビッグひな祭りを東京オリパラに出展という大きな目標がある中、県町内では、リオ・オリパラのジャパンハウスに出展した実績が知られていません。また、オリパラを身近に感じる機会が少ないこともあり、普及・啓発は十分でない状況です。そこで、ビッグひな祭り会場内の来場者や関係者が、もっと身近にオリパラを感じられるよう、「普及啓発ブースの設置」とともに「ポッチャ体験会」を導入することになりました。

ポッチャ競技を選択した理由ですが、①誰でもが気軽に体験できること、②リオパラで日本がメダルを獲得し話題性があること、③徳島県障がい者スポーツ協会が普及に力を入れていることなどが挙げられます。

同日開催で相乗効果

フォトオリエンテーリング参加者には、ビッグひな祭り会場に入場できる特典を付加しました。同日開催としたことにより、イベントを通じてスポーツを楽しむだけでなく、ビッグひな祭りを楽しみ、さらにオリパラへの関心を高めてもらうことにもつながりました。

オリパラと障がい者スポーツのPRブース

「阿波勝浦ビッグひな祭り」会場内に、パネルを掲示するとともにパンフレットも配置して、「2020東京オリパラ」に向けてのムーブメントを醸成し、かつ「東京オリパラ」への関心を高めることに寄与しました。



4 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 自然がいっぱいの中を、チームで戦略を考えながら楽しめて、運動と観光が同時にできました。個人では経験できない、おひな様街道のガイドウォークもとても楽しかったです。
- ファミリーで参加しましたが、子どもたちが地図を確認したり、時間を考えたりしながらゲームを楽しめました。また、初めてボッチャ体験をして、リオオリパラを思い出しました。
- 地元参加ですが、まだまだ知らない所があり再発見できました。おひなさま御膳もおいしかったです。
- ボッチャを初めて体験しましたが、自分の地元(東祖谷小学校)で、子どもたちに体験させたいと思いました。

運営者の声(実施後)

- フォトオリエンテーリングは、参加者がSNSを活用して、ポイントを全国に拡散してくれるので、勝浦からの広報発信としては大きな効果となりました。
- 勝浦町商工会に協力していただき、商店をポイントとして特産品等を購入してもらうなど地域活性化に貢献できました。
- 健常者と障がい者が一緒に競技できる「ボッチャ」体験を通じて、障がい者スポーツに関心を持ってくれたので普及・啓発になりました。
- 会場でボッチャを体験した参加者の声をつなげようと、東祖谷小学校でも平成29年8月26日に、一般財団法人徳島県スポーツ振興財団と徳島県障がい者スポーツ協会が「ボッチャ」体験を実施し、さらに普及することができました。

5

来年も継続開催 「リオから東京へ」の機運醸成

- 今年度も平成30年2月25日(日)に、一般財団法人徳島県スポーツ振興財団と連携した「フォトオリエンテーリング」と「ボッチャ体験」を実施します。町内外からの集客を図るとともに、障がい者スポーツの理解を深め、「リオから東京へ」のオリパラ・ムーブメントの機運を高めてまいります。
- 我が町の住民とともに、スポーツツーリズムの推進などスポーツを通じた地域活性化を図りながら、クラブの合言葉『からだ「元気」！こころ「健康」！そして「笑顔」！』を着実に具現化させていきます。

(NPO法人K-Friends 副理事長 秋成 ふみよ)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年9月13日

所在地 徳島県勝浦郡勝浦町地域

特徴 NPO法人K-Friendsは、『からだ「元気」！こころ「健康」！そして「笑顔」！』を合い言葉に、平成21年に設立、平成25年にNPO法人化されました。勝浦町民体育館・勝浦町農村環境改善センターの指定管理を受託し、スポーツ・文化教室を毎日開催し、スポーツイベントにも取り組み、そして町内の各種団体と連携し、勝浦町の地域活性の一助となっています。勝浦町婚活支援委託事業・勝浦町産業交流課委託事業なども受託しています。地域住民が健康であることで町が活力を持ち、だれもが生涯を通じてスポーツに親しめる社会が実現・定着することを目標に活動しています。

連絡先 〒771-4307 徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1-1 勝浦町民体育館内
 電話番号(FAX同) 0885-42-3671
 E-Mail kfriendskss@gmail.com
 URL <http://www.kfriends.info/>



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人 福光スポーツクラブ ＜富山県南砺市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人福光スポーツクラブが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

2017ふくみつスポーツデー 元気とやまスポレク交流大会 スポレクデーinなんとFUN RUNマラソン

実施日時	平成29年10月9日(祝・月)
実施会場	南砺市福光体育館他
参加者数	766名(全イベント含む) ニュースポーツ体験 471名(ボッチャ体験281名) ペタンク大会 105名 スタッフ 140名 観衆 50名
主催	NPO法人福光スポーツクラブ、元気とやまスポレク交流大会・スポレクデーinなんと実行委員会
後援	福光陸上競技協会、青少年育成南砺市民会議福光支部



1 障がい者スポーツとの協働を目的にボッチャ体験を企画

以前から障がい者スポーツとの協働を課題として考えており、今回当クラブの年1回の一大イベントである「ふくみつスポーツデー」においてリオデジャネイロ・パラリンピックで話題となったボッチャ競技を取り入れたいとの思いから、このような事業に取り組むことになりました。

なお、「ふくみつスポーツデー」はクラブ設立当初から実施しています。様々なスポーツ体験を通し、福光スポーツクラブ会員はもとより、南砺市住民に対し体力や健康について見直す機会を提供することで、健康づくりや体力の維持・増進を図っています。また、福光スポーツクラブの活動に対する理解を深めていただくとともに、住民相互の親睦と交流の促進に努めています。



2

企画内容

「2017ふくみつスポーツデー」会場への入場者を対象に、リオパラリンピックにて銀メダルを獲得した「ボッチャ」競技を体験していただき、障がい者スポーツの普及・啓発を図りました。

ボッチャ体験の実施にあたって必要となる用具は、富山県・富山県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催の元気とやまスポレク交流大会の予算から購入しました。

また、ボランティア等のスタッフについては、福光スポーツクラブの理事・スタッフだけでなくサークル団体(会員)に人員派遣を依頼しました。さらに、福光陸上競技協会、青少年育成南砺市市民会議福光支部等とも連携して実施しました。

ふくみつスポーツデー & スポレクデー in なんと 2017

「スポーツの秋」 無料イベントのお知らせ

10月9日(体育の日) 9時~15時半 南砺市福光体育館 他



「楽しいブース」がいっぱい

9:45-14:30
キッズ広場
バルーンアート
チームライフ
ボルダリング
トランポリン
リングビー
スポーツ吹き矢
少年団体験ブース
ペタンク
フォトラリー
三輪車レース

14:45-15:30
新体操発表会
お楽しみ抽選会

Fun Run みんなで1.5km 走に挑戦!

タイムを競わず、楽しく1.5kmを走ります!!
ご家族、ご友人と一緒にチャレンジしてみませんか?

対 象 どなたでも
時 間 9:15 スタート
9:45 終了予定
《申込み不要》



トレーニングに挑戦!

数多くのご要望に応え、今年はトレーニング室を開放します! 初めての方も安心! 専門スタッフが使い方を教えます。

対 象 高校生以上の方
時 間 10:00~14:30
《申込み不要》

主 催 NPO法人福光スポーツクラブ TEL 52-2831
共 催 福光陸上競技協会、青少年育成南砺市市民会議福光支部
後 援 南砺市教育委員会

平成 29 年度富山県スポーツフェスタ
元気とやまスポレク交流大会 2017
i n 砺波地区会場



10月9日(体育の日) 9時~15時半 南砺市福光体育館 他



「楽しいブース」がいっぱい

バイキングサスケ(巨大障害物レース)
スラックライン、けん玉
トランポリン、ボッチャ
少年団体験ブース など

見なきや、損!
県内外で活躍されている講師等による
デモンストレーションを行います
10時、13時の2回講演 各10分程

疲れたら、いっぶく広場で休憩!

《フード》
・うどん ・おにぎり
・たこやき ・やきそば
・パン ・ラーメン
・カレーライス

《ドリンク/デザート》
・アイスクリーム
・クレープ ・ジュース

主 催 富山県・富山県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
主 管 NPO法人福光スポーツクラブ TEL 52-2831

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- パラリンピック種目に気軽に参加できて楽しかった。
- ボッチャを今後もやってみたいと思いました。

運営者の声(実施後)

- 健常者と障がい者が一緒に競技できる「ボッチャ」体験を通じて、障がい者スポーツに関心を持ってくれたので、普及・啓発になりました。

4 健常者と障がい者の分けなく広い視野で実施

今回の交流レクリエーションを契機に、さまざまな障がい者スポーツをイベントだけでなく、教室などにも取り入れていくことにつながりました。

障がい者スポーツを実施する上で大切なのは、細かいところにとらわれることなく、広い視野で様々なことに取り組んでいくことだと思います。また、健常者と障がい者との分けをすることなく、一つのスポーツとして多世代の方々に楽しんでもらう意識も必要となります。

5 シニア対象イベントでもボッチャ体験会を企画

今後も、クラブのシニア向けイベント等においてもボッチャの体験会等を企画していきます。地域内外からの集客を図るとともに、障がい者スポーツへの理解を深め、「リオから東京へ」のオリパラ・ムーブメントの機運を高めてまいります。

地域の住民とともに、スポーツを通じた健康づくりを推進しながら、クラブのスローガン『スポーツで心もからだも健康に』を着実に具現化させていきます。

(NPO法人 福光スポーツクラブ クラブマネジャー 林 裕一)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年5月19日

所在地 富山県南砺市福光地区

特徴 NPO法人福光スポーツクラブは『スポーツで心もからだも健康に』をスローガンに平成14年に設立、平成17年にNPO法人化されました。南砺市福光体育館及び南砺市福光東部体育館、南砺市福光西部体育館の指定管理を受託し、その施設を活用しながら、スポーツ教室や各種イベントを開催し、地域内の各種団体と連携し、南砺市の健康づくりに寄与しています。また、南砺市の委託事業や指導者派遣事業など地域住民が気軽に参加できるような教室、企画にも積極的に協力しています。

連絡先 〒939-1654 富山県南砺市福光616番地
TEL 0763-52-2831 FAX 0763-52-7782
URL info@fukumitsu-sc.com
E-Mail <http://www.fukumitsu-sc.com>



ボッチャ体験の様子



イベント全景



フライングディスク体験の様子

連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介

大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (SCおおいたネットワーク) ＜大分県＞

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、SCおおいたネットワークが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

「総合型地域スポーツクラブ交流会」の取り組み

実施日時	平成29年11月23日(木) 9:30～15:30
実施会場	大分県立総合体育館及び運動公園
参加者数	総数1,300名(参加障がい者約70名) 車いすバスケ＝約20名 車いすテニス＝約20名 車いすロード＝約10名 卓球バレー＝約20名
主催	SCおおいたネットワーク
主管	総合型クラブ交流会実行委員会
共催	大分県教育委員会、大分県障がい者体育協会
後援	(公財)大分県体育協会、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分合同新聞、FM大分、大分ケーブルテレコム
協力	(公社)日本エアロビック連盟、大分県ラグビーフットボール協会、大分県スポーツチャンバラ協会、大分県卓球バレー協会、大分県山岳連盟、大分県障害者スポーツ指導者協議会、大分市食生活改善推進協議会、国立大学法人大分大学、日本文理大学、大分県立看護科学大学



1

企画経緯

大分県は、障がい者スポーツに関し車いすマラソンなど先進的な取り組みをしてきましたが、総合型地域スポーツクラブに障がい者スポーツを導入もしくは導入を積極的に推進している状況があまり見られない現状にあります。また、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決まって以降、その機運の高まりや、その後のレガシーへの取り組みがあまり見られませんでした。

SCおおいたネットワークでは、これまで交流会やユニバーサルスポーツである卓球バレーの指導者講習会などを実施し、障がい者も含めたスポーツをキーワードとした交流の促進を図ってきました。これを契機に、本年度、NHK大分放送局をはじめとする多くの団体等の協力を得て、車いすバスケットボールや車いすテニス、車いすマラソンロードレーサーなど障がい者スポーツの体験や卓球バレーの交流など、障がいのある人もない人も共に参加できる交流会を実施しました。

2

企画内容

◆ 2006年から毎年開催 今回からパラ3種目実施

スポーツクラブ交流会は2006年1月に初めて開催され、近年では毎年11月23日に実施し、今回で13回目の開催となりました。パラ種目については毎回1種目程度でしたが、2020年を見据え今回から3種目(車いすマラソン、車いすバスケットボール、卓球バレー)に増やしました。

運営形態については、大分県障がい者体育協会、大分県障害福祉課を通じ各団体に具体的な指導を行っていただき、種目ごとにSCおおいたネットワーク交流会実行委員(県内各クラブ選出)のスタッフを配置し、種目運営および安全管理を行う態勢をとりました。

◆ 後援・協力各団体と緊密に連携

開催前には、県教育委員会、障害福祉課、健康づくり支援課、県体育協会、OBS大分放送、NHK大分放送局と連携会議を行い、全体運営についてはSCおおいたネットワークとして各部署でサポートできる内容について協議し開催しました。当日は、大分大学、文理大学、県立看護科学大学にも協力をお願いしました。連絡等については、SCおおいたネットワークが行いました。

パラ種目の運営にあたっては、やはり安全管理に注意を払いました。SCおおいたネットワークの実行委員と大学生合わせて約80名のスタッフを配置し、運営と安全管理を徹底しました。

◆ 大学生、県内各クラブからの人員派遣で実行委員会を形成

今回も大学生や県内各クラブからの実行委員の協力により、事故もなく終了することができました。運営にあたっては、救護員を配置し、ボルダリングやラグビー、スポーツチャンバラは各協会から指導者を招聘し、実行委員は安全管理を主に担う態勢をとりました。

この企画により、各クラブ実行委員と各協会の指導者が連携して行うことから交流が生まれ、それぞれのクラブでの教室展開を促すなどの相乗効果が生まれていると考えます。また、進行マニュアルなどを各クラブに事前にメールすることで同様のイベントの参考となると考えています。さらに、交流会ではクラブ活動紹介パネルコンテストを実施し、クラブの紹介をするとともにクラブの広報力向上の一助となるよう工夫しています。

◆ クラブ対抗玉入れ大会で交流促進

交流会の最後には、クラブ対抗玉入れ大会を実施し、フリー・シニア・レディース・ジュニアの 카테고리で行い、クラブ内での交流・協力を促すことにも貢献しています。さらには、県内各プロチーム(サッカー、フットサル、バレー)からグッズを、関係企業からドリンクなどを提供していただき抽選会を実施しています。本年度から同時に大分県の掲げる健康寿命日本一につながる健康診断や食生活への助言などを参加者が受けられるようにしました。

障がいのある人もない人も交流会に参加すれば、食や健康状況、スポーツ体験など健康に関することを数多く体験できるイベントになりました。

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 障がい者だけでなく、みんなで楽しめるスポーツが体験できました。
- 車いすバスケの難しさがわかりました。
- 車いすマラソンのロードレーサーがあんなに速いと思いませんでした。
- 色々な人と交流できて良かった。

運営者の声(実施後)

- 障がい者の方の安全管理が大変だと思っていましたが、皆さん自分でできるので安心しました。
- 交流がうまくできるか心配しましたが、卓球バレーなど楽しく交流ができていました。

障がいのある方のスポーツ環境を考えると、支援学校等で障がい者スポーツやユニバーサルスポーツを部活等で行っても、卒業後はそれを続ける場所や機会がないことや、グループを作るにしても、人数が集まらないもしくは集まれないといった課題があるのではないかと感じています。また、大会やイベントを実施したくても審判をしてくれる人、運営に関わってくれる人がいないのが現状です。そのような人材の面での課題の解決や地域において障がい者スポーツを発展・普及させるためには、まさに総合型クラブの基本である「どこでも、だれでも」が求められているように思います。

今後は、この交流会がパラ種目も含めスポーツを楽しんでいただける「キッカケ」、さらには障がい者も含め、県民の皆様のスポーツをキーワードとした交流の場になればと考えています。同時に健康チェックや健康に関する食の部分も学びや体験ができるようにしたいと考えています。

この交流会をさらなる交流の場とすることも大事ですが、今回のイベントをきっかけにクラブごとの新たな交流の場づくりや地域の活性化につながることも目を向けていきます。また、卓球バレーなどのユニバーサルスポーツの大会を実施し、国際大会に発展させることができればと思っています。「2020東京」をキーワードとして、障がいのある人もない人も共に地域で活動できる場面を作っていくことが大切であると考えています。SCおおいたネットワークとしては、県内各総合型クラブがこうした活動に取り組めるようサポート(環境づくり)をしていきます。

(SCおおいたネットワーク 会長 丸山 順道)

連絡協議会プロフィール

設立年月日 平成21年6月

特 徴 県内各クラブの主体性に基づきクラブ間のネットワーク化を図り、魅力あるクラブづくりを促進するとともに、多くの地域住民がクラブライフを通して「健康・生きがいづくり、地域づくりに寄与する」ことを目的としています。

事務局 NPO法人MAKK笑人クラブ
〒872-1614 大分県国東市国見町岐部536（国見ふるさと展示館内）

連絡先 TEL 0978-75-4027
FAX 0978-83-0321
E-Mail makk2014@yahoo.co.jp

